【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成18年11月2日(2006.11.2)

【公開番号】特開2006-89393(P2006-89393A)
【公開日】平成18年4月6日(2006.4.6)
【年通号数】公開・登録公報2006-014
【出願番号】特願2004-274568(P2004-274568)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　45/06　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/121　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/426　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　1/04　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　45/06
Ａ６１Ｋ　31/121
Ａ６１Ｋ　31/426
Ａ６１Ｐ　1/04
Ａ６１Ｐ　43/00　１１１

【手続補正書】
【提出日】平成18年9月20日(2006.9.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１９】
表１に示されるように、各投与群の値をＤｕｎｎｅｔｔの多重比較により検定した結果、配合剤投与群（実施例１）はテプレノン投与群（比較例１）および対照群（比較例３）より有意に低い潰瘍係数を示した。なお、配合剤投与群（実施例１）はファモチジン投与群（比較例２）との間では有意差が認められなかったが、単独投与群（比較例１，２）と比べた場合、それぞれ各半量ずつの投与量であるにも関わらず、同等以上の潰瘍発生抑制効果が発揮されているといえる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２４】
表２に示されるように、各投与群の値をＤｕｎｎｅｔｔの多重比較により検定した結果、配合剤投与群（実施例２）はテプレノン投与群（比較例４）、ファモチジン投与群（比較例５）および対照群（比較例６）より有意に低い潰瘍係数を示した。配合剤投与群（実施例１）は、単独投与群（比較例４，５）に比べ、各半量ずつの投与量であるにも関わらず、優れたインドメタシン潰瘍発生抑制効果を示すことがわかる。